

帰国者

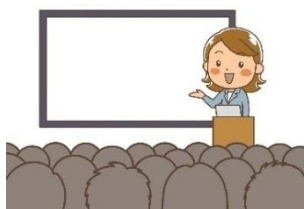
「戦後世代讲述人派遣事業紹介」



「戦後世代の語り部派遣事業の紹介」

2025 年正值战后 80 周年这一重要节点，各大报纸电视都在编辑制作专题报道。本中心自 2020 年启动了“传述遗华日本人等的体验和苦难经历的战后世代讲述人”的派遣事业，本期将向各位介绍一下此项活动的情况。

关于“战后世代讲述人”，曾经在《天天好日 82 号》作过介绍。这些出生于战后的 30 至 70 多岁的讲述人，在为期 3 年的培训中，直接聆听遗留中国及库页岛的日本人第 1 代的口述，然后将他们在战争期间及战后的亲身经历与苦难整理成演讲稿，传述给广大听众。讲述人当中有的是归国者 2 代 3 代，也有一些人以前从未与归国者有过任何关系。2020 年由于疫情的影响派遣次数不足



10 次，但 2021 年起逐年增加，至 2024 年度演讲会次数已达全年 64 次。聆听演讲的听众在这五年间累计超过 6500 人。只要接到派遣邀请，讲述人便会前往全国任何一个地方，目前已覆盖 27 个都道府县，或许就在您居住的地区也曾举办过相关活动。

讲述人们所讲述的每一位遗留日本人的经历都是各不相同的。遗留中国的与遗留库页岛的、遗留孤儿与遗留妇女、身份明确与未明确孤儿等群体之间的差异自不必说，他们在中国的生活、回国的曲折过程以及回国后的艰辛也都是千差万别。听众问卷中留下了这样的心声：

2025 年は戦後 80 年という節目の年で、新聞やテレビでも特集が組まれています。首都圏センターでは「中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部」派遣事業を 2020 年から始めましたが、今回はその活動について少しご紹介します。

この「戦後世代の語り部」については以前『天天好日 82 号』で紹介しました。戦後生まれの 30 代から 70 代の人たちが、3 年間の研修の中で、中国・樺太残留邦人の方たちから直接話を聞きとり、戦中戦後に残留邦人がどのような体験をしたか、どんな苦労があったかを講話としてまとめて、聴衆に向けて語るという活動をしています。語り部の中には帰国者二世・三世もいますし、それまで帰国者とは縁の無かった人もいます。コロナ禍の 2020 年は 10 件にも満たなかった語り部派遣ですが、2021 年以降は毎年少しずつ増えて、2024 年度には講話会の件数が年間 64 件となりました。講話を聞いてくださった人はこの 5 年間で 6500 人を超えました。派遣の要請があれば全国どこにでも語り部は出かけていくので、すでに 27 都道府県で講話を行っています。皆さんのお住まいの近くにも行ったかもしれません。

語り部が取り上げている残留邦人の体験は一人ずつ全く異なっており、中国残留と樺太残留、残留孤児と残留婦人、判明と未判明孤児等の違いはもちろん、中国での暮らしも帰国に至る経緯も帰国してからの苦労も本当に様々です。聴衆のアンケートにも以下のような声が寄せられています。

- ・ 我感受到了如今能够和平生活的奇迹。～ 听说“每场演讲内容都不一样”，还想听听其他的演讲（50 多岁）
 - ・ 这次听到的故事我决不会忘，不仅要告诉家里人，还想找个机会问问祖母我们家的根儿到底在哪儿。”（10 多岁・学生）
 - ・ 人们习惯于截取历史的某一片段来学习，但这次使我真切感受到它是随着时间的推移长久延续的一个整体。（普通市民）
- 之前连“遗华日本人”这个词都没听说过。听了这次演讲才知道原来还有日本同胞有过如此艰难的经历。D 先生的话让我再次确信“战争不会带来任何好处的”。（小学六年级）

2024 年度面向小学生、中学生和高中生演讲机会有了明显增加，因此需要下功夫调整演讲内容，比如简化内容、改用简单易懂的表达方式等，以便青少年能够理解。在此过程中，我们制作了用于了解历史背景的展板，同时编写了内容相同的手册，还剪辑了 15-20 分钟视频介绍遗留中国・库页岛日本人所产生的背景。如今，中学教科书里几乎看不到“残留孤儿”记载的教材已成为主流，在我们去做演讲的学校里也常常听到“这是头回听说”之类的感想。希望通过这些影像，能让更多人了解遗留中国的日本人、遗留库页岛的日本人是一个怎样的群体，为什么会流落异国他乡，进而希望能唤起人们对这些归国者的些许关注。

若您有意聆听此项演讲，敬请务必联系本中心。虽然不提供到个人家上门服务，但如果能几个人一起组建成小组申请，我们将前往全国任何地方。只需准

いまへいわ く き せき かん
・ 今平和に暮らせていることの奇跡を感じました。～
おな ひと ほか
「同じ話は一つもない」とのこと、他の講話も聞きたいと思いました。（50 代）

ぜったいわす わたし か ぞく はな
・ 今回聞いたお話は絶対忘れずに、私 も家族に話して、今度自分の祖母にもルーツを聞いてみたいと思いました。（10 代・学生）

れきし いちばめん き と まな と き と も
・ 歴史は一場面を切り取って学びがちですが、時と共に長く続くものと実感を持ちました。（一般）

・ 中国残留邦人という言葉すら知らなかったのですが、今回の内容を聞いて日本人の方などにそのような大変な経験をしていた人がいると、はじめて知りました。そして D さんの言っていたことを聞いて、改めて「戦争は何もいいことを生まないな」と思いました。（小学 6 年生）

2024 年度には小学生・中学生・高校生を対象に講話をする機会がかなり増えたため、子どもたちにも理解できるように講話の内容をシンプルにしたり、表現を分かりやすく変えたり等の工夫が必要になりました。その過程で、歴史的背景を知ってもらうための展示パネルを作成し、同じ内容のリーフレットも作成しました。また、講話の前に視聴してもらうために、中国・樺太残留邦人が生まれた背景を 15～20 分程度の動画にまとめたものも作成しました。今は中学校の教科書も「残留孤児」等の記述がほとんどないものが主流となっており、講話に訪れた学校でも「初めて知った」という感想が多く聞かれます。これらの映像を通して、中国残留邦人・樺太残留邦人というのはどういう人たちで、どうしてそのような人たちが生まれたのかを知ってもらい、少しでも中国・樺太帰国者に関心を持ってもらえたらと思っています。

この語り部講話を聞いてみたいと思われた方は、是非首都圏センターに一度ご連絡ください。個人のお宅への派遣などはしてありませんが、何人かでグループを作って申請をいただければ全国どこへでも伺



備①演讲场地 ②投影设备 ③至少 5-10 名听众即可。以往市民团体多借用区市民馆举办，也曾举办过数场配备中文翻译的演讲。如果觉得专门举办演讲有些困难，那么就请参加本中心每年两次的线上版演讲。最新活动资讯请关注中心官网：

<https://www.sien-center.or.jp/kataribe/index4.html>

います。①講話をする場所②資料を映す機械（プロジェクター）③少なくとも5名？10名？以上の聴衆を準備していただければ大丈夫です。今までの例では、市民グループの場合は区や市の公民館などの部屋を借りて講話会を実施されています。中国語の通訳を入れて実施した講話会も数件あります。わざわざ講話会を開くのはちょっとハードルが高いと思われた方は、センター主催のオンライン講話会も年に二回ありますので、そちらにご参加ください。講話会の開催情報はセンターのHPにて随時更新しております。

(O)

<https://www.sien-center.or.jp/kataribe/index4.html>